

セーターにおけるストライプ柄のイメージに関する基礎的考察

山梨県立女短大 小菅啓子

目的 ストライプ柄は、衣服の代表的なデザイン柄の一つであるが、ストライプ柄のイメージに関する研究は、今日までおこなわれていない。そこで前回¹⁾、セーターに用いられる、白と黒の構成による無彩色のストライプ柄に対するイメージについて、形容詞対を用いて、SD法による5段階評価をおこない、因子分析法により解析した。

今回は、有彩色と無彩色の二色配色のストライプ柄を作成し、イメージテストならびに解析と、前回と同様な方法を用いておこなった。その結果を報告する。

方法 1) 試料：ストライプの形態は、基調幅、間隔幅とも太いもの(7^{mm}・3^{mm})、基調幅、間隔幅とも細いもの(1^{mm}・0.5^{mm})、基調幅が太く、間隔幅が細いもの(7^{mm}・0.5^{mm})、基調幅が細く、間隔幅が太いもの(0.5^{mm}・7^{mm})の計4種とする。色彩は、基調幅に純色の有彩色(赤、黄、青、紫の4種)、間隔幅に無彩色(白、灰、黒の3種)の二色配色とした。これら、形態と色彩の異なるストライプ柄48種を作成した。2) イメージテスト：18対の形容詞対を用いて、山梨県在住の18才～20才までの女子学生68名、33才～44才までの主婦ならびに職業婦人60名、計128名を対象にして、イメージテストをおこなった。

結果 1) 有彩色と無彩色の二色配色のストライプ柄のイメージは、はっきりの因子、落ちっきの因子、あっきりの因子(累積寄与率86.8%)の3因子であらわされる。2) 各試料の因子得点から、ストライプ柄における、はっきりの因子(因子寄与率52.9%)は、形態と色彩が関係し、落ちっきの因子(因子寄与率23.3%)は、明度が関係し、あっきりの因子は、形態の属性が関係してくることがわかった。D. 昭和47年度繊維消費年次大会